

茨城県立日立第一高等学校

沢畑雅彦

私は現在、茨城県立日立第一高等学校(以下、日立一高)で教諭をしております。この3月まで文部科学省の派遣教員としてマレーシアの首都クアラルンプールにあるマラヤ大学(UM)予備教育センター(PASUM)の日本留学特別コース(RPKJ・通称AAJ)において教科教員を務めておりました。

このAAJに派遣されるためには文部科学省の試験に合格しなくてはなりません。私が最初に挑戦しようと思ったのは今からちょうど10年前のことです。当時は30代前半で教員経験も浅く、学校以外の社会をよく分かっていませんでしたが、当時の上司が「語学力がつけばコミュニケーション能力がもっと伸びる」と勧めてくれたのです。不安はたくさんありましたが、家族の後押しもあり、思い切って試験を受けたものの、残念ながらそのときは落ちてしまいました。その後、転勤などでなかなか受験機会を得られず、7年越し二度目の挑戦で合格してのAAJへの派遣でした。

マレーシアでの私の仕事は、日本への留学を目指すマレーシアの学生に日本の高等学校の数学を教えることです。マレーシアと日本では「数学」に対する捉え方が異なっており、マレーシアの数学は日本で言えば「数学」と「情報」の間のようなもので、授業中はもちろん試験中でも計算機を使って数学の問題を解きます。ですからマレーシアの学生にとって、計算機を使わない日本の数学はとても大変です。さらに留学に必要なのは数学だけではありませんから、彼らは本当にすごい努力をして日本に留学して来のです。それを手助けするのが私たちの仕事です。

また、直接の仕事ではありませんが、他にもマレーシアで私が力を入れていたことがあります。それはマレーシアで海外研修を希望する高校や団体のお手伝いです。私の勤務校である日立一高は平成19年度からスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)として文部科学省より指定を受け、現在も継続中です。SSHとは将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関などとの連携、地域の特色を生かした課題研究など様々な取り組みを実施する学校として指定された高等学校等のことです。その立ち上げメンバーの一人として、担当した仕事の一つが海外研修でした。この時の経験から海外での研修先を探す難しさを実感し、お手伝いをすることにしたのです。

実際に現地での研修先を見つけるのは困難なものでした。マレーシアではマラヤ大学

はもちろん、その他の大学や企業などでも、日本の高校生の研修を受け入れてくれそう
なところがあれば、足を運ぶようにしていました。海外で生活しているとはいえ、言葉
の壁はやはり高く、交渉は苦勞しました。しかし、諦めずに続けていくうちに徐々に受
け入れてもいいと言うところが増え、いくつかの研修を実現するまでにこぎ着けること
ができました。そればかりか、気づいてみるとマレーシアばかりでなく、インドネシア
やフィリピン、オーストラリアやモロッコなど外国のあちこちに知り合いができていま
した。帰国後も海外の知人たちとの関係は続いており、かつてマラヤ大学で教えたマレ
ーシアからの留学生が本校を来訪し生徒たちとの交流を持ってきています。

いろいろ悩んで踏み出した一歩でしたが、今は挑戦して本当によかったと思っていま
す。もしあのかとき挑戦していなくても、交友関係は広がっていたかもしれません。しか
し、日本以外の国々にこんなにもたくさんの友だちができることはなかったでしょう。
今思えば、AAJ 派遣教員を勧めてくれた上司の言った「コミュニケーション能力が伸
びる」とはこのようなことだったのかもしれませんが。交友範囲の広がりばかりでなく、
私の仕事も広がっています。

やらないよりはやった方が絶対にいい。やってみて失敗したって、それが今後の生活
にプラスになるはずです。

私は「またチャンスがあったら絶対に飛び出してやろう」と常に思って生活していま
す。